

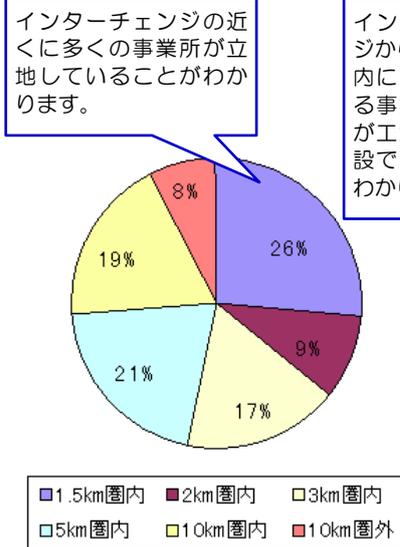
◆活用事例①：産業施設の整備計画へのデータ活用

圏央道の整備に合わせて、川島インターチェンジ（埼玉県）周辺の産業施設の整備が行われました。本整備の計画策定にあたっては東京都市圏物資流動調査のデータが活用されています。

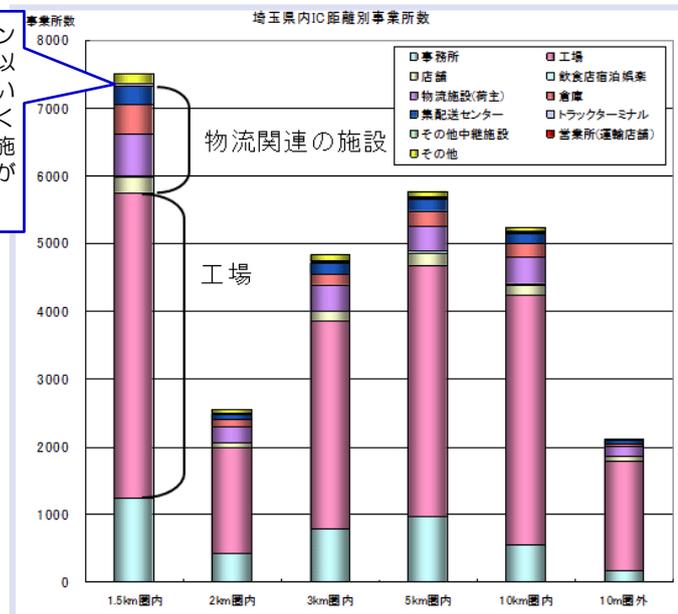
<物流施設や工場の立地場所の特徴に関する分析>

- 産業施設の整備にあたり、東京都市圏物資流動調査の事業所の立地データを活用して、物流施設や工場の立地に適した場所の特徴を明らかにするための分析を行っています。
- 分析から、埼玉県内では、高速道路インターチェンジの近傍（1.5km 圏内等）は、道路の利便性のよさ、土地や施設の購入・借用・整備等の容易さから、工場や物流施設の立地に適していることが示されています。

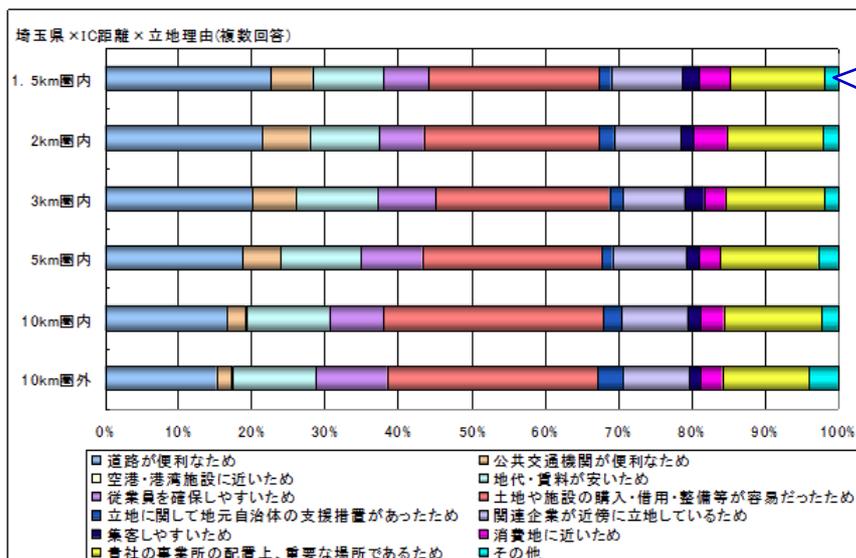
●事業所立地場所の高速道路インターチェンジからの距離帯構成比(埼玉県内)



●高速道路インターチェンジからの距離帯別・施設種類別の事業所立地件数(埼玉県内)



●高速道路インターチェンジからの距離帯別にみた事業所の立地場所選定理由(埼玉県内)



インターチェンジの近傍に立地する事業所は道路の利便性、土地や施設の購入・借用・整備等の容易さを理由に立地しています。

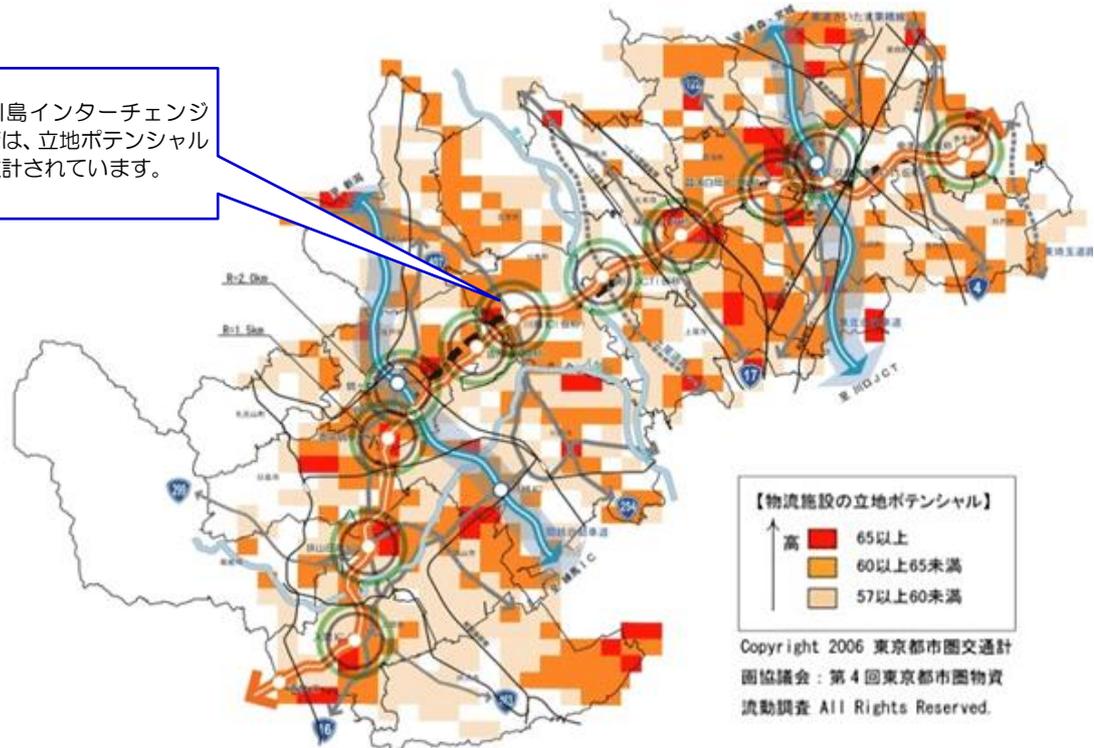
<圏央道整備後の物流施設の立地ポテンシャルの分析>

- さらに、東京都市圏物資流動調査の物流施設の立地データを利用して、圏央道整備後の物流施設の立地ポテンシャル（立地しやすさを表す指標）※を1 km メッシュ単位で推計しています。
- 推計結果から、圏央道のインターチェンジ近傍は、立地ポテンシャルが高く推計されるエリアが多く、川島インターチェンジの近傍も立地ポテンシャルが高い（したがって、産業施設の整備に適している）ことが示されています。

※立地ポテンシャルとは物流施設の立地しやすさを数値で表現したもの。数値が高いほど立地しやすいことを表す。高速道路 IC までの距離、用途地域、地価、道路密度など物流施設の立地要因に関する指標から算出している。

●圏央道埼玉区間沿線の物流施設の立地ポテンシャルの推計結果(圏央道整備後)

圏央道川島インターチェンジの近傍では、立地ポテンシャルが高く推計されています。



<川島インターチェンジ近傍の整備計画の策定>

- 圏央道の川島インターチェンジ近傍では、以上の分析結果を踏まえた上で、産業施設の整備計画が策定されました。